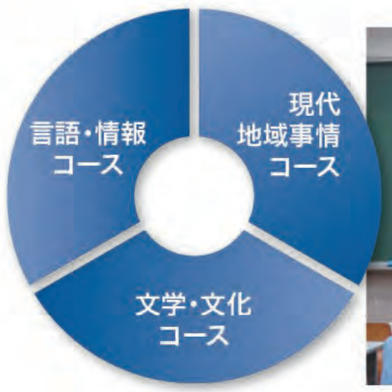
学習院大学
GAKUSHUIN UNIVERSITY

文学部ドイツ語圏文化学科

大学院人文科学研究科
ドイツ語ドイツ文学専攻

文学部ドイツ語圏文化学科

ドイツ語を使いこなし、
ドイツ語圏のプロに！
やわらか頭の発信型人材を育てます。



目的

激動する現代社会に対応できる問題発見・解決能力と自己表現力を高め、国際感覚を養成します。

◆充実したドイツ語教育

学生一人ひとりのドイツ語の力に応じたクラス編成を行い、初心者も既習者も効果的に学べる学習環境を整えています。初歩から通訳・翻訳者を目指す学生のレベルに至るまで、充実したドイツ語教育が行われます。

◆自己表現力を養成する授業

1・2年生で履修する入門ゼミナールを始め、コース・ゼミナールや演習では、資料検索や発表の仕方を学ぶと同時に、自分の考えをしっかりと伝える自己表現力を養成します。ドイツ語圏を多角的な視点から学ぶことによって、現在の日本そして世界でおきている問題を発見し、それを解決する道をみずから考える力を身につけることを目指します。

また情報収集やレポート作成に不可欠なコンピュータの知識を学び、情報を批判的に解読する力を養成します。

◆ドイツ語圏のエキスパートを目指す

三つのコースはドイツ語圏の言語と文化、そして現代社会事情を網羅しています。狭い意味での言語学や文学・文化だけでなく、ドイツ語圏の現代の諸問題や若者文化、サブカルチャーなども学習することによって、ドイツ語圏の諸事情に精通したエキスパートの養成を目指します。

特色

◆興味に応じて自由に選択するコース制

1年から4年まで、以下の三つのコースを軸に各自の関心に応じて卒業までのプランニングを組み立てることができます。

Ⅰ.言語・情報コース	ことばとしてのドイツ語の特徴、言語と社会の関係、コミュニケーション（情報伝達）のあり方を学びます。
Ⅱ.文学・文化コース	これまでの文学研究に加えて、演劇、映画、芸術（絵画・音楽）などを含めた領域を文化学の観点から考察します。
Ⅲ.現代地域事情コース	地域事情（環境、教育、風俗習慣など）を体系的に学び、あたらしいメディア社会への理解も深めます。

1・2年では各コースの入門ゼミナールと講義で基礎的知識を習得し、3年からは一つのコースを選択します。所属コース以外の専門演習も履修できます。4年生の卒業論文または卒業研究は個性を発揮するチャンスです。

◆特別プログラム：通訳・翻訳者養成演習

三つのコースの他に、一定のレベル以上のドイツ語力を持った学生のために、1年から履修できる特別プログラム：通訳・翻訳者養成演習があります。在学中に日本政府観光局の「通訳案内士」試験に合格するレベルを目指します。

◆インターンシップの単位化

在学中にドイツ語圏の地域で実際に職業経験をするインターンシップを卒業に必要な単位として認定します。一定以上のドイツ語力があることと、学科が認めるインターンシップであることが前提です（次ページ参照）。

[履修の流れ]

- **1年次**
  - **基礎的な語学力を習得。** ドイツ語圏文化学科で学ぶために必要な語学力をつけます。
  - **ドイツ語圏の現代地域事情を学習。**
- **2年次**
  - **中級レベルの語学力を習得。** ドイツ語の表現能力を高めます。
  - **ドイツ語圏の文学・文化、言語・情報について学習。**
- **3年次**
  - **ドイツ語の総合的な能力を養成します。**
  - **コースを選択。** 言語・情報、文学・文化、現代地域事情のなかからひとつコースを選択し、専門性を高めます。同時に専門演習により多彩な内容を学習します。
- **4年次**
  - **卒業論文または卒業研究を作成。** 4年間の学習の総まとめです。

4年間を通じて
多様な講義科目が履修可能:
言語・情報、文学・文化、現代地域事情に関する講義を履修できます。

特別プログラム「通訳・翻訳者養成演習」資格検定試験合格を目指し、ドイツ語の高度な能力を養成します。

想定される進路

4年間で養われた語学力、自己表現力、そしてドイツ語圏に関する知識を生かし、全国各地の大学や中学校・高等学校で教育・研究に携わる教員として、あるいは銀行、メーカー、航空会社等の一般企業、マスコミ関係、大使館やドイツ系企業を職場に活躍しています。卒業後、大学院へ進学して研究者を目指す学生も少なくありません。

サポート体制

ドイツ語圏文化学科では、留学、インターンシップ、学生同士あるいは卒業生との交流など、さまざまな形で、皆さんの大学生活をサポートしています。

1 ドイツ夏期語学講習

1年生から毎年、夏休み4週間、ドイツのバイロイト大学、リューネブルク大学、ライプツィヒ大学で開催されているドイツ語講習への参加を強く推奨しています。日本人学習者の特性を知りぬいた現地の優秀なスタッフによる授業やサポートにより、初めての海外滞在を不安なく過ごすことができる機会を提供してくれます。

2 資格取得にリンクした授業

通訳・翻訳者養成演習として設けられている授業では、国際レベルのドイツ語能力認定試験の受験準備を行っています。この資格は、ドイツ留学を目指す学生にとって重要なもので、また就職直前準備としてゲーテ・インスティトゥートの協力も得て、特別課外授業も設けています。

3 学科生と卒業生を結ぶ学習院大学ドイツ文学会

年1回、在学生・卒業生・教員等で構成する「学習院大学ドイツ文学会」が『めじろだより』を発行しています。学部生、大学院生やさまざまな年代の卒業生による近況報告とエッセイ、映画や本、催し物の紹介など盛りだくさんの内容です。

TOPICS

学生同士の交流・情報交換の場

学部生による留学体験報告会

協定留学として留学できるドイツのマンハイム大学、バイロイト大学、オーストリアのザルツブルク大学のほか、協定外のドイツ語圏の大学や語学学校に1年以上の長期留学をする学生が毎年たくさんいます。こうした留学を終えた学生が、その体験を後輩たちに語ってくれます。

4年次生による就職活動報告会

就職活動を無事済ませ、内定を手にした学生によるライブ感覚あふれる報告会です。エントリーシートの書き方、面接でのポイントなど実践的なアドバイスをドイツ語圏文化学科の先輩から得ることができます。

ドイツ語圏関連の講演会

「学習院大学ドイツ文学会」の催しの一つで、年1回開催されます。ドイツ語、ドイツ文化・経済などの分野で活躍されている方、卒業生などをお招きし、毎回活発な質疑応答が行われています。その後の懇親会も和気あいあいとした雰囲気で、講演者や先輩との出会いが待っています。

卒業論文中間発表会

夏休み直前に卒業論文執筆中の4年次の学生が中間報告をします。大学院生や教員からコメントやアドバイスをもらえる有意義な機会です。また、これから卒業論文を書く学生にとっても非常に参考になります。同時に、3年次学生のための卒業ガイダンスも数回に分けて行い、きめ細かな指導が得られます。

ドイツ語圏文化学科 教員紹介

田丸 理砂 教授
Tamaru Risa

研究分野
近現代ドイツ文学、フェミニズム文学批評、ジェンダー文化論

私の授業

私の専門はドイツ語圏の文学・文化研究です。授業では、ドイツ語圏の文学や文化を社会背景とともに学び、自らの価値観を問いただすことを目指しています。そのときジェンダーや階層という視点は、いろいろな発見をもたらしてくれます。たとえば1920年代には女性の表現者（作家、写真家、アーティスト等々）が急増しますが、それには社会の民主化および大衆化、そしてそれを促したマスメディアの発展が大きく関わっています。ちなみにこの時代に活躍していた女性作家やアーティストは2000年を過ぎてからドイツ語圏でも急速に研究が進んでおり、これらの作品に取り組むことはワクワクする経験の連続です。

授業ではもちろん、過去の時代だけでなく、現代のドイツ語圏の社会についても文学、映画、アート作品などから考えていきます。いい意味でも悪い意味でもグローバル化の進む時代を生きる私たちにとって、日本以外に別の軸足をもつことは、他者への想像力を深めるために、とても大切なことだと考えています。

私の授業

私の担当する専門の授業は、言語学系のものが中心です。ドイツ語が専門といっても、ドイツ語だけを見ていてもその特徴は見えてきませんから、日本語や英語などと比較することになります。個別の言語だけを見ていると、ついつい「これは、～語の特徴だ」と思い込んでしまうことがありますが、そう結論づける前に別の言語に同じような現象がないかどうかを検討してみる必要があります。

学部の授業では、言語学系の授業と現代地域事情系の授業を担当しています。言語情報コースゼミでは認知言語学を扱っています。これまで、ドイツ語の辞書記述を比較したり、認知言語学の入門書を読んだりしてきました。数年前から方向転換し、ドイツ語の推理小説を読みながら、その中で学期ごとに決めたテーマに沿ってゼミ参加者に例文を発見してもらい、それについて調べて発表してもらう形式にしました。これだと、ドイツ語の力を養うこともでき、言語分析のきっかけをつかむこともできます。これまでのテーマは「意味の構成性の原理にそむくような表現とその構造」、「動物のたとえ」、「音象徴を伴う動詞」、「メトニミー表現」などです。

現代地域事情コースゼミでは、もっぱら環境問題を扱っています。「環境汚染」という視点と「エネルギー問題」という視点からドイツ語圏の情報をドイツ語で収集し、日本の現状と比較し、考察します。ドイツというと「環境先進国」というイメージが日本に定着していますが、そういう固定した見方に囚われずに、きちんとデータを評価して批判的に考えることを目指しています。「自分で考える」こと、「考えたことを積極的に発言する」ことが私の授業のモットーです。

岡本 順治 教授
Okamoto Junji

研究分野
ドイツ語学、認知意味論、言語理論

趣味・特技
水泳、読書、Linux

高田 博行 教授
Takada Hiroyuki

研究分野
ドイツ語学、近現代のドイツ語史、歴史語用論

私の授業

私の考える本学科学生の到達目標を、まず簡潔に表現しておきたいと思います。それは、ドイツ語に関する相応の能力（ちから）を身につけたうえで、ドイツ語圏の言語・文学・文化に関する知識（こころえ）と比較の目（こだわり）を持つことです。ドイツ語圏文化学科に入学して来たひとは4年のあいだに、日本と比較・対照する目を大きく開いて、ドイツ語圏文化という「異文化の違和感」をじゅうぶんに楽しんで下さい。

私の担当するゼミでは、ドイツ語という言語を通してドイツ語圏の歴史・社会・文化を読み解くという姿勢で取り組みます。ドイツ語の音声や単語や文法をただ機械的に分析するのではなくて、言語使用者の顔が見えるような考察を大切にします。 例えば、なぜドイツでも日本でも若者は「～みたいなあ感じのぉー」とか「～だったりしてえー」のようなボカシ表現を使うのか、ヒトラーの演説のどのような点が民衆の心のなかへ奥深くしみ入っていったのか、また 200 年前と今のドイツとでは言語マナーにどのような違いがあるのか等について、いっしょに議論し考えましょう。またゼミでの発表の経験を通じて、人前でうまくプレゼンテーションする力と、テーマが何であれ、それについて自分の考え・立場を表明し議論できる力をぜひ養ってもらいたいと思っています。なお、この数年間に授業で扱ったテーマには次のようなものがあります：「テーマについて自己発信するドイツ語」、「広告・政治宣伝の歴史と現在」、「言語から読み解く第三帝国」、「近世ドイツの阿呆笑話を読む」。

私の授業

私の授業は主としてドイツ語で行われます。ネーティブスピーカーの授業と言うと、きっとたくさんドイツ語を話さないといけない授業だろうと思いこむ学生が少なくありません。でも、心配はありません。私の授業を受講する前からすでにドイツ語能力が十分にある必要はありません。私の授業に出席することで、ドイツ語のコミュニケーション能力を高めればいいのです。また私の授業を通じて、ドイツ語の新聞や書籍を読み、またドイツ語のラジオやテレビ放送を理解する能力も向上します。外国語をきちんと学ぶには、ネーティブスピーカーとのコンタクトがまさに重要なのです。

日本人にとってドイツ語を話すことがいかに難しいかということを、私は知っています（私自身、いまでも日本語と毎日「戦って」います）。ですから、私の授業は、学生の皆さんにできる限りわかりやすいものになるよう努めています。例えば、できる限り簡単に話したり、繰り返したり、また内容を言い換えたり、キーワードやキーセンテンスを英語または日本語に訳したり（これが私のいい日本語の勉強にもなります）しています。私の授業で一番大切なのは、学生の皆さんとお話しをすることです。私はすでに日本に来て長いですから、日本における学習方法がドイツとは異なることを十分に配慮して授業を進めることができます。

私が授業で学生の皆さんに力を付けて欲しいと思うのは、自分の考え、自分の立場をドイツ語で表現できること、そしてもちろん、ドイツ語圏の文学、文化、とりわけ現在の社会と生活の事情を学んでもらうことです。

Thomas Pekar 教授
トーマス・ペーカー

研究分野
異文化間ゲルマニスティク、修辞学、近代文学史及び近代文学理論、文化論

清野 智昭 教授
Seino Tomoaki

研究分野
ドイツ語学、コーパス言語学、応用言語学

私の授業

私の授業は大きく分けて、専門の言語・情報コースゼミナールおよび現代地域入門ゼミナール、そして、学部学生に対するドイツ語の授業です。

言語・情報コースゼミナールでは、コーパスと呼ばれる大量の言語資料を用いて、ドイツ語の構文や語法を調査する方法を扱っています。コンピュータでの処理を扱うので当然パソコンの効果的な使い方から解説するのですが、パソコンが問題を見つけたり、論文を書いてくれるわけではありません。ドイツ語はどんな言語か、どのような面白い現象があるかを参加者とともに考えて授業を進めていきます。

現代地域入門ゼミナールでは、ライプツィヒという都市を取り上げ、ドイツを「定点観測」しながら、東西ドイツの分断から統一後の世界を観察することと、ドイツワインについて扱うこともしています。ワインを飲むときに役立つ知識だけではなく、ワインという農産物を通して、ドイツの農業や流通のあり方を考えていきます。

学部のドイツ語の授業では、「ドイツ語のしくみ」を理解した上で、とにかく使いこなせるようになるための練習を多く取り入れています。

私の授業

私が授業で目指すのは、現代の日本社会、それもグローバル社会の一員としての日本の社会を、広い視野でかつ批判的に、そして自分自身の問題として考えることです。そう書くと、ドイツ語やドイツ文学とは何の関係もないように感じるかもしれませんが、ドイツについて学ぶことは、日本社会を考えるための材料の宝庫です。ドイツと日本は、戦後、同じ敗戦国として出発し、奇跡とも呼ばれる経済復興を遂げ、現在それぞれ世界第 4 位、第 3 位の経済大国となっています。その一方で、ドイツが EU を通じて問題がないとはいえないまでも強固な信頼関係を近隣諸国と築いてきているのに対し、日本は現在アジアの近隣諸国と大きなコンフリクトを抱えています。こうした、近くて遠いドイツという国の文学や文化を通して、自分が常識だと思っている世界を疑い、相対化する経験を積んでほしいと思います。

また、こうした目的のためにも、「使える」ドイツ語を身に着けることを目指します。今日覚えたら 10 年後も覚えていられるような、体を使った学習方法を実践していきたいと思います。

伊藤　白 准教授
Ito Mashiro

研究分野
ドイツ文学、ドイツの図書館制度、ドイツの経済政策

趣味
フルート

小林 和貴子 教授
Kobayashi Wakiko

研究分野
現代ドイツ文学・ドイツのサブカルチャー

私の授業

私は主に、文学文化コースと現代地域事情コースの入門ゼミナール（1～2 年生向け）とコースゼミナール（3～4年生向け）を担当しています。

これらの授業では、ドイツ文化の様々な側面を扱っていきますが、文学文化コースと現代地域事情コースの授業に共通して大切なのは、まず文献をしっかりと読むことです。そこになにが書いてあって、なにが書いていないのか? 表現の背後に、どんな暗黙の了解があるのか? その表現は、どんな現実の比喩なのか――等々。実は、文献を読むというのは、非常に難しい作業です。ですので、授業では、いろんなタイプの文献を一人ひとりの視点で読んでもらったうえで、グループワークを通じて皆で理解を深めます。AI との共存時代に突入した現在、私たち人間に求められるのは、「情報」よりもはるかに複雑な「言葉」を解釈したり分析したりする力だと言われています。地道な精読の訓練を重ねながら、皆で、時代や文化への読解力を身に着けていくのが目標です。

読む材料は、たくさんあります。文学や映画も読みますし、音楽や絵画、建築も、時代を映す鏡であると同時に、来るべき時代を予告するものでもあるでしょう。私自身が皆さんから学ぶことも多いので、皆さんが発言しやすい空間づくりを意識しています。素朴な気づきもツッコミも、大歓迎です!

授業紹介

Ⅰ.言語・情報コース

- 現代史を写す言語と図像
- ヒトラー演説の実像に迫る
- 人のこころと顔が見えるドイツ語史
- 言語とジェンダー
- ドイツ語コーパス言語学
- 言語間の干渉：ドイツ語英語から学ぶ
- レトリックの力
- ドイツ語で情報処理する方法
- 会話文における論理的展開
- 中世ドイツ語学・文学入門
- ドイツ語のしくみと考え方

Ⅱ.文学・文化コース

- ドイツ語圏の文学・文化とジェンダー
- カフカを読む
- 検閲・焚書とドイツ文学
- グリム『家庭と子供のメルヘン集』
- ドイツ語圏におけるアメリカ像
- 戦争と文学
- 戦争と映画
- 文化を読むリテラシー
- ドイツ語圏の絵画史
- オーストリアの歴史と文学
- 記憶と文化

Ⅲ.現代地域事情コース

- 東ドイツを振り返る
- ドイツの労働問題
- 現代ドイツ政治外交史
- ドイツと移民・難民
- ドイツ語圏の環境問題
- 戦後ドイツの歴史意識と歴史教育
- ドイツ語圏における日本文化
- EUのなかのドイツ
- ドイツワイン学
- 日独比較男女平等立法
- スイスと「アイデンティティ」

学習院大学文学部　ドイツ語圏文化学科

学生が見つけた「ここがおもしろい」！

※学年は 2023 年現在

ウィーンミュージカル ｜ 3年 高木花南子

『エリザベート』や『モーツァルト！』に代表されるウィーンミュージカルが、今も昔も世界中の人々を惹きつけています。

2017 年、数多くの人気作品を生み出してきたウィーン劇場協会の新作『I AM FROM AUSTRIA』がウィーンで上演されました。物語は、女優エマ・カーターが、訪れたウィーンのホテルの跡取り息子であるジョージと出会うところから始まります。現代オーストリアの美しい街並や豊かな自然、そこに存在する社会問題と向き合う中で、エマとジョージは自分の本当の居場所を見つけます。

この作品では、オーストリア人の愛国精神を鼓舞するとともに、「世界に通じるオーストリア」を印象づけるような演出も多く見られます。楽曲はオーストリアの国民的歌手が 1980 年代に発表したもので、舞台セットとしてオーストリア出身の有名人がパネルで登場。そして台詞にはニッチなオーストリア的なネタが盛りだくさん。愛国心をここまで前面に押し出した作品は珍しく、映像技術をふんだんに使用した現代的な演出は「新しいウィーンミュージカル」の誕生を感じさせるものです。

多くの人々を魅了するウィーンミュージカルの挑戦は続いているのです。

ドイツワイン ｜ 4年 北尾琳花

ワインがヨーロッパの歴史・文化を語るうえで重要な存在であることをご存じでしょうか。

その歴史は紀元前にまで遡ることができる程長く、それゆえに現在では「旧世界」「新世界」と生産地域が分けられています。ドイツは旧世界の生産国で、寒冷な地域であることから白ワイン品種、特にドイツを代表する品種であるリースリングを筆頭に数多くのワインを昔から生産しています。

現在、ドイツワインはさっぱりとした辛口が主流に作られています。これらは食中酒として様々な料理に合わせることができるのですが、ソテーやマリネといった洋食だけでなく、唐揚げや天麩羅などの和食との相性が抜群で、実は日本酒に近しい部分があります。もちろん、ゼクト（スパークリング）、デザートワインのクオリティは言うまでもありません。ワインの歴史は古く、現代に至るまでの過程で人々の生活に深く根ざしており、政治や宗教におけるキーアイテムでもありました。ワインとは、存在そのものが研究対象として様々な可能性を秘めているのです。

留学のすすめ

留学はドイツ語の上達だけでなく、視野を広げる貴重な機会です。夏休みを利用した短期留学と、1 年間滞在する長期留学があります。

短期留学としては、バイロイト大学、リューネブルク大学、ライプツィヒ大学が主催する夏期ドイツ語コースを学科として勧めています。毎年 2 年生を中心として 20 名ほどが参加しています。大学で初めてドイツ語を学ぶ学生も、2 年生の夏までには日常生活で困らないほどのレベルに到達しますので、学んだドイツ語を実際に使ってみる楽しさとともに、世界各国から参加している学生たちとの交流でグローバルな視野が広がります。

長期留学としては協定校のバイロイト大学とマンハイム大学、ザルツブルク大学への留学の他にも、自分で選んだ大学への留学も可能です。ドイツは地方分権の強い国なので、どの都市の大学も独特の魅力を感じることができます。短期留学も長期留学も、学習院大学の奨学金制度を利用することができます。

先生たちがすすめる学びのポイント

ドイツの環境意識 ｜ 岡本順治 教授

ドイツは「環境問題に先進的に取り組んでいる国」というイメージがあります。原子力発電を例に話をしましょう。2011 年 3 月 11 日に起こった大震災と、それに起因する福島第一原発事故は日本人だけでなく、世界中の人々を震撼させました。日本では、この原発事故を調査する委員会が 3 つ作られましたが、原因が津波か地震かという議論はあっても、東京電力や政府の責任は曖昧なままになっています。それどころか現政権は、原発の建て替えや 60 年超の運転を容認しました。

一方、ドイツでは福島原発の事故を知り、原発延命政策に多くの市民が反対し、全国各地で集会を開きました。メルケル首相の諮問機関として「倫理委員会」が組織され、「脱原発」を骨子とする答申が出ると、原発を全廃することが議会で承認されました。2022 年、ロシアのウクライナ侵攻を発端にエネルギー危機が起きましたが、2023 年 4 月 15 日にドイツは脱原発を完了しました。一旦事故が起これば原発ほど危険なものはない、核のゴミ問題は解決困難である、という問題に目をそむけない姿勢がドイツにはあります。この姿勢が重要です。

写真提供　南ドイツ新聞 / ユニフォトプレス

カフカ･イン･ジャパン ｜ 小林和貴子 教授

小さい頃の愛読マンガ『あさりちゃん』（室山まゆみ、小学館）に、ある朝あさりが虫に変身し、6 本足に靴下をはかせる…というエピソードがありました。フランツ・カフカの小説『変身』を戯画化したものですが、主人公が変身するのは蜘蛛の類かと思いきや、実は特定不可能な無気味な虫。人々を魅了してやまない不可思議なカフカの世界には、アイデンティティや主体をめぐる問題を浮き彫りにするものが多く含まれますが、それは彼が 20 世紀初頭のオーストリア＝ハンガリー帝国領プラハにおいて、ユダヤ系の家庭に生まれたことと無関係ではありません。多民族の暮らす地で、多数派のチェコ語を話しながら文学活動は支配者階級のドイツ語で行うという、まさにグローバルな時代を先取りした環境に生きたカフカ。いまや世界で日本を代表する作家村上春樹の『海辺のカフカ』も、あまたあるカフカ受容の実り豊かな一例でしょう。『変身』といえば、繊細な筆致で絵画化した西岡兄妹のマンガ『カフカ』（ヴィレッジブックス）や、久米田康治『さよなら絶望先生』（講談社）も一読に値します。

教員による近著紹介

高田博行・山下仁（編著）
『断絶のコミュニケーション』
（シリーズドイツ語が拓く地平 第1巻）
ひつじ書房、2019 年

第 1 部では、言語学史、メディア学、芸術論の観点からナチズムを分析し、現代に至るナチズムの言説を再検討する。
第 2 部では、報道文や移民の言語、ヘイトスピーチ等を分析し、現代社会におけるコミュニケーションの断絶に切り込む。

イルムガルト・コイン
『この夜を越えて』
田丸理砂訳、左右社、2022 年

第二次世界大戦前夜の 1936 年のフランクフルトが舞台の小説。ナチ化していく社会の様子が、19 歳の主人公ザナの目を通して語られる。ヴァイマール時代を代表する女性作家が、ナチスが台頭する瞬間のドイツをリアルタイムで描いた群像劇。

ヘンリー・ローニッツ／クリストフ・ゲッデ編
『ヴァルター・ベンヤミン / グレーテル・アドルノ 往復書簡 1930-1940』
伊藤白・鈴木直・三島憲一訳、みすず書房、2017 年

ベンヤミンとその盟友アドルノの婚約者グレーテルとの間で交わされた書簡 180 通。ファシズムの荒れ狂った 1930 年代に、亡命中のベンヤミンの生活を支え、アドルノとの関係をつなぎ、後期の重要な作品群を救った友情の記録。

フラーケ
『きょうは世界の誕生日』
小林和貴子訳、東宣出版、2022 年

ドイツ最大級のバンド、ラムシュタインのキーボード奏者フラーケによる、エキセントリックなバンド回想録。東独出身の六人組による、統一ドイツにおける挑戦と挑発の軌跡を辿る本書は、「もう一つのドイツ現代史」でもある。

大学院人文科学研究科
ドイツ語ドイツ文学専攻

何を学ぶのか

ドイツ語ドイツ文学専攻ではドイツ文学・文化およびドイツ言語学の専門知識を身につけることはもちろん、ベースとなるドイツ語運用能力の向上も重視します。また、ティーチング・アシスタントとして教育経験を積むこともできます。

小林和貴子　教授

専門
主な研究領域は20世紀以降のドイツ語圏文学・文化です。社会の周縁に追いやられた人々による作品や、そうした人々を題材にした作品を手掛かりに、迫害ないし差別のメカニズムやそれを乗り越える視点を探っています。

授業
19世紀以降のドイツ語圏文学を、主に言語と現実の関連を意識しながら精読しています。ある作品がある「現実」を生み出すときに、その作品内「現実」は私たちの生きている現実にどう関わっていくでしょうか。こうした視点を手掛かりに、文学による社会変革の可能性を考えていきます。

田丸理砂　教授
（身体表象文化学専攻と兼任）

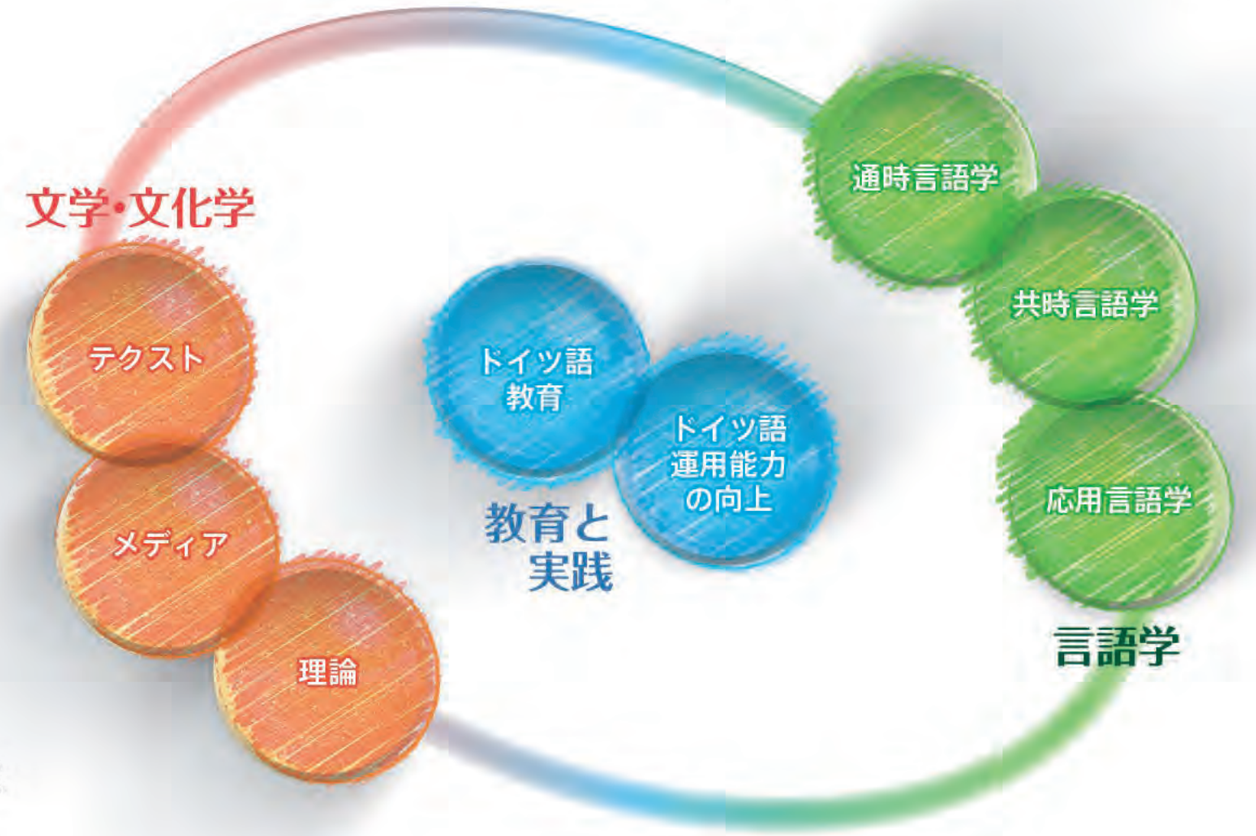
専門
ワイマール共和国時代の「新しい女」のイメージと同時代に活躍していた女性作家、女性アーティストの作品を研究しています。また最近は彼女たちの亡命期や第二次世界大戦後の活動へと関心を広げています。

授業
最近の授業では移動や旅行に注目し、戦間期にヨーロッパ人によって書かれたアメリカ社会をテーマとしたルポルタージュや、新しいテクノロジー（自動車や写真）と文学表現の関係性などについて論じたテキストを取り上げています。

伊藤 白　准教授

専門
他者表象の社会的背景やそこに構築された権力構造を分析するとともに、「他者」の表象によって「自己」と「他者」との間の壁を超える可能性を文学作品の中に見出すことを研究のテーマとしています。

授業
「イメージ」は構築されたものであるという意識のもと、近現代の文学作品や思想・美術・音楽などの様々な分野のテクストを精読し、その中に描かれた社会的・民族的・政治的・ジェンダー的・宗教的な「他者」及び「自己」のイメージを学生と一緒に読み解いていく授業を行っています。



Thomas Pekar　教授

専門
ムージル、ホーフマンスタール、カフカ、ユンガーなどの作家研究とならび、文化比較の観点からナチス時代に亡命した作家たち、特にユダヤ人作家を中心に研究しています。

授業
ドイツ語圏の主要な作家の作品について分析と議論を行っています。最近では、おもに亡命と異文化間の接触をテーマとして授業をしました。前者に関しては特にナチス時代に東アジアへ亡命した作家の作品を、後者に関しては日独関係を扱っています。

清野智昭　教授

専門
ドイツ語の構文や表現の基になる事態の捉え方を研究しています。特に興味があるのが、有生性が構文に与える特性、つまり、生き物（典型的には人間）と事物の表され方です。

授業
動詞が中心となり文を作るという考えをするヴァレンツ理論とその現代的意義、コーパスを使った構文の分析などを扱っています。

高田博行　教授

専門
言語はなぜ変化するのか。この答えとして、私は人を取り巻く社会の構造や、人と人のコミュニケーションのあり方の変化に応じて言語が変化するプロセスに注目します。「人の顔が見える」ようなドイツ語史記述を目指しているわけです。

授業
「歴史語用論入門」、「歴史社会言語学入門」という授業名で、魔女裁判記録の口語性、戯曲のなかの呼称詞、辞書のなかの野卑語、アメリカ移民のドイツ語、ナチズムのドイツ語等を扱いました。

岡本順治　教授

専門
おおきな枠では、人間の認知活動の一環として言語を見る「認知言語学」が専門です。具体的には、ドイツ語の分離動詞（Partikelverben）の仕組みの解明、心態詞（Modalpartikeln）の意味を近年は扱っています。

授業
言語を分析する時に、直感的な説明ではなく、科学的な方法論が必要になります。近年では、コーパス言語学、音声学・音韻論、統語論・意味論などの基礎的知識と理論をきちんと理解するための授業を行っています。

大学院の授業

大学院の授業の特徴は、学部の授業と比べると、すべての授業が少人数のゼミ形式になるため、学ぶ内容の密度が格段に濃くなることです。学部の授業が基本知識のインプットに比重を置いているのに対して、大学院ではアウトプットの比重がより大きくなります。学位論文（修士・博士）の執筆や学会での研究発表、学会誌への論文投稿が最も重要な研究活動になるからです。大学院の授業でも授業内発表が学部同様にありますが、その質・量・頻度は大きく異なり、発表ごとに何らかの研究の進展が求められます。授業内容に関する裁量権が増えることも大学院の授業の楽しみの一つと言えます。ゼミの教員と他の参加者と相談しながら、関心のあるテーマを扱い、共に議論する機会を得ることができるのです。学部時代、大人数の授業で発言機会が限られていたことに窮屈さを感じたことがある人にとって、大学院はまさに理想の空間なのではないでしょうか。

その一方で、必要単位数は修士、博士と進むにつれて少なくなります。その分自身の研究を進めるために時間を割くことができますし、これに伴い個人研究の時間管理が最も大切になります。ただしドイツの大学院では日本より多くの取得単位数が要求されるため、将来的にドイツの大学へ留学を考えるならば、積極的にゼミや講義を受講していくことも重要になるでしょう。

（出島恒太郎　博士後期課程）

院生の日々

中濱 彩希（博士前期課程）

院生としての日々は、充実していて楽しいです。授業は学部生の頃より専門性が高く、そこから豊富な知識を得られます。また、授業や研究で扱う文献や作品を言葉の１つ１つにまでこだわって精読します。様々な名文や名作に触れることが出来るのは、価値ある経験です。その際翻訳のないドイツ語文献や作品に挑戦することも多く、レベルの高さに困難を感じることも少なくありません。しかし自力でドイツ語を訳せた時の感動はとても大きいものです。

研究の際は先生方との距離の近さを実感します。学生に寄り添って一緒に進めてくださるため、不安や心配はありません。先生方が学生一人一人の興味・関心に合わせて組んでくださる授業を受けられるのも、院生の特権です。

さらに、TA（ティーチング・アシスタント）として先生方をお手伝いするという、院生ならではの経験を積む人もいます。一部の授業は学部生の方と一緒に受けることが出来、これは下級生の皆さんから刺激をもらえる貴重な機会です。

中濱さんの時間割

	月	火	水	木	金
1					
2		ドイツ文学特殊研究「Franz Kafka "Erzählungen"」			ドイツ文学演習「19 世紀のドイツ・ロマン主義文学（E.T.A. ホフマン）/ 20 世紀ドイツ文学とロマン主義（M. エンデ）」
3		ドイツ文学演習「ジェンダーの視点から文学作品を読む」		TA(アカデミック・スキルズ入門 B、現代地域事情入門ゼミナール)	
4					
5					

大倉 子南（博士後期課程）

文献を読み進めたうえで関連する内容を掘り下げて進めていく大学院の授業は、予習復習が大変です。しかし、その分多くの学びと発見がありとても充実しています。先生方も院生の研究分野をよく理解してくださっていて、役立つ知識と助言をいつもくださいます。

ドイツ語圏から研究者を招聘して、大学院の授業を担当いただくこともあります。研究の最先端に触れる良い機会となります。私の場合、この体験が刺激になって日本学術振興会の「若手研究者海外挑戦プログラム」による奨学金に応募して、博士後期課程２年の後半から１年間ベルリン自由大学で研究滞在することができました。現地の研究者の方々と交流して意見交換を行うことで、自分の研究を相対化して見ることができ、新しい気づきをたくさん得ました。

本専攻は先生方のサポート、充実した設備、そして海外の研究者の方々との交流といった点で、研究の幅をさらに広げていくためにとても良い環境が用意されています。

大倉さんの時間割

	月	火	水	木	金
1					
2		ドイツ語史演習「初期新高ドイツ語時代のテクストを読む」			
3					
4	言語学特殊研究「認知意味論と意味の通言語的研究」				
5	言語学特殊研究「認知意味論と意味の通言語的研究」			ドイツ語学特殊研究「中世ドイツ語学・文学入門」	

院生・卒業生の活躍

受賞された佐藤恵さん

本学ドイツ語ドイツ文学専攻出身の佐藤恵さんが、2017 年 5 月、第 14 回日本独文学会学会賞を受賞しました! 受賞対象となった論文「»Wegen dem Clavier«. Die Beethovens und der Rektionswandel der Präpositionen wegen, statt und während im Zeitraum 1520-1870」は在学中に執筆され、ドイツの言語学系の由緒ある雑誌『Muttersprache』（第 125 号）に掲載されたものです。

ベートーベンの筆談帳を歴史的な話しことばの資料として用い、ドイツ語の前置詞 wegen, statt, während の格支配の変化を追ったもので、多くの実証的データと優れた考察に裏打ちされています。佐藤さん、おめでとうございます!!!

ドイツ語運用能力の育成を重視

当専攻では、より高度なドイツ語の運用能力を在籍生が身につけられるように、DAAD（ドイツ学術交流会）の給付奨学金を利用した短期・長期語学留学をバックアップし、コミュニケーション能力の育成に特化したネイティヴの講師による授業を開講しています。

ドイツ語ドイツ文学専攻フロア図（北2号館3階）

事務室

助教1名と副手2名がいます。履修や留学などさまざまな相談に乗っています。

閲覧室

書庫の資料を閲覧する場でもあり、おもに学部生が集まって勉強したり、食事したり、情報交換を行う場所です。和書やDVD、ビデオ等の資料が配架されており、AV機器もあります。

書庫

おもに洋書が収められています。この他、和書は閲覧室と共同研究室にあります。古い資料は地下書庫に収められています。学科図書室では洋書　は約50,000冊、和書は約4,000冊を所蔵しており、手軽に豊富な資料に触れることができます。

大学院研究室

通称「院生室」。パソコンやプリンター、コピー機が備えてあります。大学院生、研究生等が集まる場所です。個人の研究以外にも大学院の授業や研究会がここで行われます。

過去10年間に提出された修士論文・博士論文題目

文学文化

- 第二次世界大戦以前の日独交流と両国相互の異文化体験
- 20世紀初頭のモダンダンスにおける身体
- 啓蒙期における教育思想の流れからみるフリードリヒ・ヴィークの音楽教育法
- 19世紀の音楽新聞及び雑誌からみる音楽と検閲
- 『ファウストゥス博士』から読み解くトーマス・マンの芸術観の変遷
- グリム兄弟における〈フォルク〉の理想―市民社会と家族との関連性からの考察
- ファム・ファタルの表象とその受容―ヴェデキントの"ルル"を中心に
- ヘルマン・ヘッセの作品における時代批判

言語学

- 言語意識史から見た言語変化―1520年～1870年における前置詞wegenの通時的発展を例にして
- 「ヒトラー」らしさは言語的にどのように演出されるのか?―小説『帰ってきたヒトラー』(2012年)を例にして
- ドイツ語のヴィッツにおける皮肉と嫌み―関連性理論による分析
- 感嘆文に現れる心態詞:コーパスに基づいた分析
- 19世紀オーストリアにおける言語規範と方言
- 「ドイツ性」の象徴としてのドイツ文字－20世紀初頭の全ドイツ文字協会における「民族性」に注目して－
- Malを用いた副詞規定による量化
- Absentivの機能に関する考察

本専攻出身者による博士論文題目

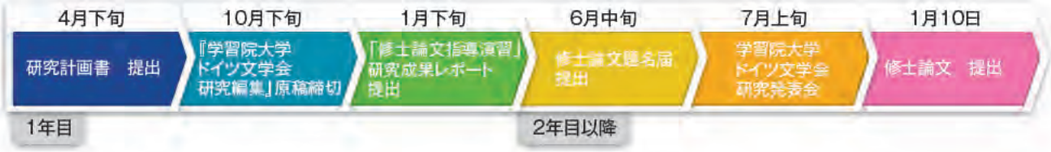
- Hosokawa, Hirofumi: Zeitungssprache und Mündlichkeit. Soziopragmatische Untersuchungen zur Sprache in Zeitungen um 1850, Christian-Albrechts-Universität zu Kiel, 2013
- 木村 裕一：世紀転換期における言語危機の演出―フリッツ・マウトナー、フーゴ・フォン・ホーフマンスタール、フランツ・カフカにおける境界的空間と例外的形象―、学習院大学、2013年
- 牛山 さおり：ドイツ語を母語とする幼児の心態詞獲得・習得に関する研究－Rigolコーパスに基づく心態詞dochとjaの分析－、学習院大学、2014年
- 芹澤 円：近世ドイツの印刷ビラ、新聞、モード雑誌の言語的特徴―口語性の展開と構文の変化を中心にして

大学院修了後の進路

初めから研究者や大学教員になりたいと思って、大学院への進学を考える人ばかりではありません。本専攻では修士号取得後に社会に出て活躍している人も多くいます。ドイツ語圏の企業、大使館や外務省、通訳・翻訳者、出版社や新聞社といったマスコミ関連、旅行会社などに就職しています。博士課程に進学した人は、その後は大学や高校の教員として活躍しています。専門の勉強をしながら、就職先の調査やそのためにすべきことを考えることもできます。知的好奇心を満たすべく大学院への進学を一度考えてみませんか。

修士・博士論文完成までのプロセス

修士論文



■研究計画書
本研究科に入学した学生は、４月末日までに研究目標をまとめた「研究計画書」を提出します。
修士論文執筆には長期的な計画が必要となりますので、この時点で大まかな目標について指導教授と相談して作成します。

■論文投稿の支援
本専攻で発行する『学習院大学ドイツ文学会　研究論集』や人文科学研究科の発行する『学習院大学人文科学論集』に研究の成果を発表できます。
卒業論文をまとめたものや、修論の途中経過などをアウトプットすることで、研究の方向性をより明確にすることができます。

■修士論文指導演習
博士前期課程を通じて指導教授と綿密に連絡を取ることで、修論完成のための様々なサポートを受けることができます。１月には、その１年の研究成果をまとめたレポートを提出します（もちろん修論提出時には、それをレポートに替えることになります）。

■学習院大学ドイツ文学会　研究発表会（修士論文中間発表）
「学習院大学ドイツ文学会　研究発表会」では、修士論文の中間報告など、研究発表の場を提供しています。
学会での発表は、研究業績として挙げることが可能です。

■修士論文提出
修士論文の提出は例年１月10日頃となっています。字数は４万字以上。当然ドイツ語での執筆も可能です。

博士論文

■研究計画書
博士後期課程に入学した学生は博士論文提出の前々年度の４月下旬に、指導教員の指導を受けて研究目標をまとめた「研究計画書」を提出します。

■博士論文中間報告と予備論文
「研究計画書」が可と判断されると、博士論文提出の前年度に「博士論文中間報告」を行い「予備論文」を提出します。

■博士論文提出
「予備論文」が可と判断されると、博士論文を提出することができます。

■口述試験
提出された博士論文が審査され、口述試験が行われます。この口述試験の合格を経て博士学位が授与されます。

■博士前期・後期課程在籍期間を通じて
研究計画に応じて、一ヶ月程度の短期間から１年以上の長期間まで、海外への留学や研究滞在も可能です。
上述の奨学金制度をはじめとする様々なサポートを利用して、国際的な研究活動を行うことができます。

大学院生のための研究支援

奨学金

大学院生の研究活動を支援するために数々の奨学金や研究支援の枠組みが用意されています。

・人文科学研究科特別研究費（学会発表旅費・滞在費補助、図書の購入などに使用可能）申請者全員に支給
・博士前期課程：　年間５万円　　・博士後期課程：　年間 20 万円

・学習院大学大学院博士後期課程給付奨学金　申請者全員に支給
年間授業料の３分の１相当額の給付（約 16 万円）

★他にも、下記の通り様々な貸与型・給付型奨学金制度があります。

- **学習院大学教育ローン金利助成奨学金（給付）**
- **学習院大学海外留学奨学金（給付）**
- **学習院大学学業優秀者給付奨学金（給付）**
- **学習院大学奨学金（貸与）**
- **安倍能成記念教育基金奨学金（給付）**
- **日本学生支援機構奨学金（貸与）**
- **学習院大学海外短期語学研修奨学金（給付）**

また、日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の申請や DAAD（ドイツ学術交流会）奨学金によるドイツ留学も全面的にバックアップします。博士後期課程から、日本学術振興会特別研究員として採用される院生、DAAD 奨学金の合格者も多く輩出しています。秋期入学試験で進学が決まれば、入学年度の夏休みに DAAD 奨学生として短期留学することも可能です。

海外研究者や他の大学院との活発な交流

本専攻ではドイツ語圏を初めとする海外で活躍する研究者を積極的に招聘し、本専攻で共同研究や講演会だけでなく、大学院生への授業および研究指導をも行ってもらっています。そうした機会を利用して留学時の指導教授を見つける学生も少なくありません。

近年、「学習院大学客員研究者」として来日した研究者
- Paul Rössler氏（レーゲンスブルク大学教授）2017年9月
- Stephan Elspaß氏（アウクスブルク大学教授）2015年4月
- Andreas Gardt氏（カッセル大学教授）2014年3月
- Ludwig M. Eichinger氏（ドイツ語研究所所長）2014年1月
- Jörg Bücker氏（ミュンスター大学博士）2014年1月

本専攻で講演・ワークショップを行った研究者（抜粋）
- 作家Nora Gomringer氏による朗読会 2016年11月
- 作家Kevin Vennemann氏による朗読会 2016年6月
- Elizabeth Closs Traugott氏（スタンフォード大学〈アメリカ〉名誉教授）2011年3月
- Andreas H. Jucker氏（チューリッヒ大学教授）2011年3月

教員の研究活動 ｜近年の外部資金によるプロジェクト（一部抜粋）

・現代ドイツにおける「ナチ語彙」の変容と使用動機―言語学と政治学の協働による研究
科研費：基盤研究（C）、2022年度～2024年度、研究代表者：高田博行

・「文芸公共圏を形成する社会システムとしての図書館」
科研費：基盤研究（C）、2021～2023年度、研究代表者：伊藤白

・「ナチスドイツから東アジアへのユダヤ人の『トランジット移住』研究」
科研費：基盤研究（C）、2021～2023年度、研究代表者：Thomas Pekar

・「ナチドイツの言語統制に関する修辞学的・コーパス言語学的研究―言語学と歴史学の協働」
科研費：基盤研究（C）、2019～2021年度、研究代表者：高田博行

学生募集要領

学習院大学　文学部　ドイツ語圏文化学科

■ 一般入学試験（コア試験）

募集人数：30名
試 験 日：毎年２月上旬～中旬
試験科目：国語、外国語、地歴・公民・数学

■ 指定校推薦入学

対　　象：本学が指定した高等学校（指定校は毎年見直し、選定しています）。
時　　期：毎年７月上旬に、全国の各高等学校長宛に依頼通知を送付します。
内　　容：各高等学校長から推薦された生徒に対して、書類選考を行い、合格者を決定します
（指定校推薦に関する受験生からの個別の質問は、受け付けておりません）。

■ 公募制推薦入学

募集人数：若干名
選考時期：毎年11月中旬
内　　容：学力試験のみによっては評価しがたい資質・能力を主に調査書や志願理由書などの資料によって判断するとともに、小論文や面接によって学科の特質への適応性を判定し、ドイツ語圏文化学科にふさわしい学生を選抜します。ドイツ語の学習歴は必要ありません。
全国の高等学校から幅広く人材を募り、１校あたりの推薦人数は制限しません。

学習院大学大学院　人文科学研究科
ドイツ語ドイツ文学専攻

博士前期課程

■ 秋期入学試験（募集人員約２名）　試 験 日：毎年９月中旬
■ 春期入学試験（募集人員約３名）　試 験 日：毎年２月中旬

博士後期課程

■ 春期入学試験（募集人員約２名）　試 験 日：毎年２月中旬

◆年度ごとの試験日、出願期間、出願資格、試験科目などに関する詳細は以下の HP をご覧下さい。
http://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/

◆資料・募集要項の請求については以下の HP をご覧下さい。
http://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/related/request/

◆お問い合わせ先

○募集要項の請求、ならびに入学試験に関するお問い合わせ
学習院大学アドミッションセンター（西５号館４階）
TEL. 03－5992－1083 ・ 03－5992－9226
電話受付時間　平日 9:00 ～ 17:00　※土曜・日曜・祝日は受付しておりません

○ドイツ語圏文化学科・ドイツ語ドイツ文学専攻に関するお問い合わせ
学習院大学文学部ドイツ語圏文化学科事務室（北２号館３階）
TEL. 03－5992－1098　　E-mail：germ-off@gakushuin.ac.jp

さくまサン GAKUSHUIN UNIVERSITY